

◎「スポーツと健康」

概要

在学中および卒業後の豊かなライフスタイルを形成できる心身の基盤を養う。

達成目標

人間力の育成として、身体・体力面（自己コントロール、適応力、耐性、自律性、達成感など）とともに社会・対人関係面（共感力、リーダーシップ、協調性、連帯感、コミュニケーションなど）における能力の向上を図る。

カリキュラムの方針

1年次対象科目として、複数教員が6運動種目（ソフトボール、バレーボール、テニス、サッカー、卓球、フライングディスク）を担当する。一般的に普及している集団的スポーツと個人的スポーツで構成し、その中に軽スポーツ的な内容（卓球）を配して学生のニーズに応えられるようにしている。学生は、希望によって分けられたグループ（種目）ごとに受講する。週1回の授業の中で、自己の体力および心身の健康への認識を深め、それぞれの運動種目の基礎技能並びに基本的知識（戦術、ルール、マナー、審判など）を修得するなど個人的な能力の開発をめざす。また、ゲームを多く体験することで、運動する楽しさ、ストレス発散、技能の向上をねらうとともにチームワークを高め、試合運営について熟知できるようにする。一方、グループを定期的に変えることで、様々な人達と接する機会を増やししながら、グループ間での学び合い、経験者による初心者指導、器具・用具の準備・片付け等における協働作業など、社会・対人関係力の形成に努める。また、それぞれの学生のレベルに応じたプログラムを同時に実施することで、運動する楽しさや意欲的な学修への動機づけを行う。

以上のカリキュラムによって、履修した運動種目の知識、技能の基本的な能力の修得を通し心身の健康を維持し、体力向上への意識づけを図るとともに今後発展するコミュニケーション能力、リーダーシップの基盤を養成することを目指す。

◎「情報処理基礎」

概要

すべての学生が共通的に持つべき情報リテラシーの修得を図る目的で企画された必修科目である。具体的には、オフィス系ソフトウェア、ウェブ、電子メールの標準的な使い方とそれらの間の有機的連携方法、ハードウェアの基本的な使い方、情報倫理、総合メディア基盤センターのコンピュータおよびネットワーク環境について、講義と実習を併用した形式で学修する。

達成目標

情報化社会を賢明に生きるとともに、専門分野でリーダーシップを発揮するためには、情報の検索、交換、表現や分析等の利用技術に通じること、とりわけインターネットなどの高度情報ネットワークを効果的に活用する能力が必要になる。また、情報犯罪から身を守るため、そして知らずして社会に迷惑を与えてしまうことが起きないよう情報化社会の光と陰の両面を理解し、基本的な情報倫理や情報セキュリティに関する知識を身につける必要がある。

本授業では、情報化社会で必要不可欠とされる情報リテラシー（情報および情報手段を主体的に選択し活用していくための基礎的な能力）を学び、情報活用の実践力を養い、情報の科学的理解を深め、情報社会に創造的に参画する素養を修得することを目指す。

カリキュラムの方針

すべての学生が共通的に修得すべき内容を中心に、学問領域の性質を考慮し、学部・学科等ごとに相応しい事項を反映させた編成とする。

◎とちぎ終章学総論

概要

高齢社会に関する課題を自らの問題として捉え、高齢者と共に生きるため、また、自分自身も豊かな終章を生きるための知識について学ぶ。

達成目標

- ・人間がどのように老いていくのか、その生き方の多様性を理解し、関心を持つ。
- ・高齢社会における生活をめぐる課題について理解し、解決策について考える。
- ・自らのこととして老いや終章について考えることにより、人生を積極的に生きる意欲を喚起する。

カリキュラムの方針

基盤教育科目の目標である行動的知性の養成を進めるために、特に学内外の講師や実践家による社会問題の第一線から見た世界を広げることを意図している。また、学生同士のコミュニケーションを促すアクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目として位置づける。そのため、双方向型の討論等を積極的に取り入れた参加型の授業スタイルを導入して、学生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合へと進めていく。

◎基盤教育英語科目 (EPUU)

概要

基盤教育の一環として、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養い、地球的な視野を持った 21 世紀型市民の育成を目指す。

達成目標

「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の 4 技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力を高めるとともに、文化的背景に関する知識をも身につけさせることにより、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力を養成する。

カリキュラムの方針

1 年次対象科目として、日本人教員による「Integrated English IA」(前期週 2 回)、「Integrated English II A」(後期週 2 回)、外国人教員による「Integrated English IB」(前期週 1 回)、「Integrated English II B」(後期週 1 回)を開設している。2 年次対象科目としては、前・後期それぞれ、skills 別に 14 種類の「Advanced English I」を開設しており、その中から前期 1 科目 (週 1 回)、後期 1 科目 (週 1 回)を、選択必修として履修させる。更に 3、4 年次対象の選択科目として、「Advanced English II」、「Advanced English III」を開設している。

「Integrated English A」においては、Study Skills の養成後、Oral Communication と Reading を主とした 4 skills (speaking, listening, reading, writing) の育成を図る。「Integrated English B」においては、Oral Communication と Writing を主とした 4 skills の育成を図る。「Advanced English I」、「Advanced English II」、「Advanced English III」の各クラスにおいては、1 年次で修得した基本的な英語運用能力を基に、特定の skill に焦点をあてた英語力の育成を図る。個々の学生が自己の興味や必要に応じて、学修対象 skill を選択する。

習熟度に対応した英語力養成を徹底し、そのために、入学時、1 年終了時、2 年終了時の計 3 回、全員に TOEIC を受験させる。1 年次生を 4 ないし 5 レベルの、2 年次生を 2 レベルの習熟度別クラスに分ける。ことに、習熟度の高い学生の英語力育成には力を入れており、入学時 TOEIC 650 点以上を取得した学生 Honors Student は、通常学生と異なる Honors Program 即ち「英語優等生プログラム」を、4 年間にわたり履修可能である。

以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の 50%以上になることを目指す。

概要

幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身につけることを目的とする。

◎人文科学系科目

達成目標

自然を対象にした研究領域である自然科学に対して、人間の本性や行動、文化や芸術的側面に関する研究分野が人文科学である。人文科学系科目では、教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本を身につける。

カリキュラムの方針

人文科学系の科目は哲学、心理学、文学、芸術の領域からなり、教養教育の基礎となる学問領域である。さらに、人文総合領域という区分を設けることで、これらの個別の領域にとどまらないテーマで人文科学的な知識や考え方を身につける授業を用意している。

開設する科目は、哲学領域では、哲学と思想関係の科目、心理学領域では行動、認知、人間関係など心理学の下位分野を踏まえた科目、文学領域では、日本をはじめアジア各国、欧米各国の文学に関する科目、芸術領域では、文化論と美学、芸術学等の科目である。さらに、人文総合領域では、学修・教育やコミュニケーションなどに関する複数の領域にわたる科目を開設する。

これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得することができる。

◎社会科学系科目

達成目標

社会科学系科目は、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養うことを目的とする。また、日本社会のみならず、国際的な視野に立ち、それぞれの社会の特殊性への理解を深める。この過程を通じて、政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成してゆく力を養成する。

カリキュラムの方針

多様な現実社会の理解を可能にするため、社会科学系は多方面の科目から成立している。それらは「法学領域」、「政治学領域」、「経済学領域」、「社会学領域」、「地理学領域」、「歴史学領域」の6領域に、これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域に分類される。

履修者は自身の必要に応じて履修すべき領域を決定し、それぞれの領域から科目を選択することで、各自の学修計画に応じた履修が可能となる。この領域分類を参照することで、各領域から過不足なく履修し、バランスよく知識を修得し、様々な問題に対応するための基礎力を修得することが可能となる。

◎自然科学系科目

達成目標

自然科学に関する基本的な知識や技能を修得し、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識に触れ方法論を学ぶことによって、持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養を身につけることを達成目標とする。

カリキュラムの方針

自然科学系科目の達成目標に到達させるために、次のように授業科目が編成されている。大学での学修の基盤を育成するため、本科目は1～2年次を中心に履修する。

開設する科目は学生の要望に応えられるように、数学、物理、化学、生物、情報、地学、健康の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目を開設している。これらの科目の中から自分に必要と思う科目を選択し履修することで自然科学に関する幅広い基礎知識を身につける。

◎初習外国語系科目

達成目標

大学に入学する以前、学んだ経験のない外国語（初習外国語）の学修を通じ、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」ことについての基礎的能力を養うとともに、英語学修のみでは気付きにくい、諸外国や異文化の多様性への興味を喚起し、理解を深め、地域的な視野を踏まえた幅広く深い教養と豊かな人間性を醸成する。また、語学学修を通じた自律的な大学での学びの基礎づくりを行い、現代社会に必要なリテラシーを身につけさせる。

なお、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語、タイ語が設定されている。

カリキュラムの方針

1年次対象科目として、「初習外国語基礎Ⅰ」、「初習外国語基礎Ⅱ」、「初習外国語基礎Ⅲ」、「初習外国語基礎Ⅳ」を開設している。これらは、いずれも大学入学前に、それぞれの言語を学修したことのない初習者を対象に「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」といった力を養うものである。

また、上記科目を修得後、2年次以降を対象とした科目として、「初習外国語応用Ⅰ」、「初習外国語応用Ⅱ」が開設されている。当該科目では、各言語の基礎的能力を確認しながら、コミュニケーションやプレゼンテーションなどの実践的な能力の向上を図る。

一つの言語で、「初習外国語基礎Ⅰ」、「初習外国語基礎Ⅱ」、「初習外国語基礎Ⅲ」、「初習外国語基礎Ⅳ」、「初習外国語応用Ⅰ」、「初習外国語応用Ⅱ」の6科目を学ぶことにより、各言語の基礎的コミュニケーション能力を段階的に向上させることが可能となる。また、「初習外国語基礎Ⅰ」、「初習外国語基礎Ⅱ」のみを履修することによって、自律的な語学学修スキルを修得することも可能となる。

なお、国際学部の学生は、「初習外国語基礎Ⅲ」、「初習外国語基礎Ⅳ」、「初習外国語応用Ⅰ」、「初習外国語応用Ⅱ」を、専門導入科目として履修する。

◎総合系科目

達成目標

社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋げられる課題解決力、すなわち行動的知性の養成を目標とする。

カリキュラムの方針

教室外活動の実施、大学内外のさまざまな組織からの講師の積極的登用、高齢化、過疎化、環境問題など、地域社会の現実的課題と向き合いながら能動的に学ぶアクティブ・ラーニングという新しいスタイルの教養科目を数多く取りそろえる。ラーニング・コモンズ等で行う教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルを中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた実践と知の統合を行うことで、現在および将来にわたり“あらたな社会”を創る上で求められる行動的知性を養成する。